

カルデシズムの成立

1804年、フランスのあるブルジョア家庭でデニザー・ヒッポリト・レオン・リヴァイユが生まれた。それからのち100年も経たずしてブラジルで名を轟かせることとなる心霊主義の泰斗である。彼は後に降霊によってアラン・カルデックと命名された。カルデシズムとは、その名に由来する心霊主義を指す。

デニザーは、スイスの学校で14歳まで学び、20歳でペスタロッチの教育にかんする本を出版、それ以降16冊の著作を世に出した。それからのちは私塾で教育学、哲学、医学を教えたとされる。彼は社会主義思想家フーリエに影響を受けたが、フーリエからは当時流行していたテーブルターニングも学んだ。それが心霊主義と接するきっかけになった。当時のフランス社会では社会主義者らが影響力をもつようになっていた。そのうち一定の人びとは、社会的不平等を理解するための説明要因として輪廻転生を受け入れていたとされる。

また、この頃フランツ・アノン・メスメルが「発見」した動物磁気による治療も流行っていた。カルデシズムにはこのメスメリズムの影響が容易に看取される。カルデックは、「かつて奇跡と呼ばれてきたものは自然現象にほかならなかったが、人間はその原因を究明できずにいた。今日では、その多くが心霊主義とマグネティズム（メスメリズム）の研究によって証明可能となり理解可能になった」と述べている。

19世紀ヨーロッパの心霊主義は、1848年3月に米国ニューヨークのフォックス姉妹に現れた霊的現象（ハイズヴィル事件）が淵源になっている。これは近代心霊主義の幕開けとされ、この事件以降、交霊会のブームが米国で広がった。それから4年ほどしてイギリスにも伝えられ、フランスにも飛び火した。交霊会では上流階級の人びとが交霊術であるテーブルターニングを楽しんだ。ニュースは1853年6月のリオデジャネイロの新聞に掲載され、翌月には市内の富裕層が娯楽として興じるようになっていた。少し時代が下って日本に伝えられたのが「こっくりさん」である。

さて、デニザーは1856年に心霊術の集會に通うようになった。4月のある集會で霊媒から次のようなメッセージが下された。「今、真実であり、偉大で美しく、創造主に相応しい宗教が必要とされている。基礎的な教えは既に与えられている。ヒヴァイユ、汝に（その宗教を伝える）任務がある。」

このような啓示のもと、彼はアラン・カルデックと命名された。彼の教えは、モーセ、キリストに継ぐ「第三の啓示」とされる。それゆえ信奉者にとって、カルデシズムはキリスト教の連続線上にある。

カルデックは聖書のつぎの章句を言及し、教えの根拠と正当性を示している。

私は父にお願いしよう。父は別の慰安者を使わして、永遠に汝らと共にいるようにして下さる。この方は、真理の霊である。世界は、この霊を見ようとも知ろうともしない

ので、受け入れることができない。しかし、あなた方はこの霊を知っている。この霊があなた方と共にいて、これからも、あなた方の内にいるからである（ヨハネ 14:16～17）。

イエスは別の慰安者である真理の霊の出現を約束しており、それがカルデックだというのである。カルデックは、「心霊主義によって新たな地平が将来明らかにされるのみならず、過去の神秘にも生き生きとした光を投げかける」という。そして、隠されたイエスのメッセージが理解できるようになるには、カルデシズムの新しい考え方と知識、そしてそれを裏付ける科学の発展が必要だとも述べる。そのような視点から、キリスト教は不完全だとも表現される。

「キリストは、完全なる光を周囲の人びとに与えるべきではないと判断した。それを与えたとしても人びとには十分に理解できなかったからだ。それゆえ、キリストはある意味で、あらゆる人が逃れることの出来ない将来の生活について言及するに止まった。ゆえに、あらゆるクリスチャンは強制的に将来の生活を信じるようになった。しかし、そこで語られる観念は往々にして曖昧で、不完全で、多くの点で偽りである。多くの人びとにとってそれは絶対的な確信を伴わないたんなる信念にすぎない。人びとが真理を理解することができるレベルに到達したので、キリストの教えを補完するために心霊主義が現れた。」

カルデシズムの聖典である『聖霊の書』は1857年に著された。これはカルデックの質問に数人の霊が答えるという形式で書かれている。カルデシズムは、過去の数々の教えの集大成で、人間によってではなく地球のあらゆるところに住んでいる何千もの仲介者、すなわち空の声を伝える諸霊によって明らかにされたという。

カルデックは、多くの町で心霊主義について講義を行い、キリスト教会から批判されるようになった。たとえば『霊媒の書』が出版された1861年、スペインのバルセロナで300冊が当地の司教によって広場で焼かれるという事件が起こった。カルデシスタ（カルデシズム信奉者）らは、これを「バルセロナの異端審問」と呼んでいる。また、1889年と1917年にはバチカンの公文書に心霊主義を攻撃する文書が掲載された。カルデシズムは、成立当初からカトリック教会の非難の対象になっていたといえる。

これらの事件はカトリック教会がカルデシズムを脅威に感じていたことを示している。現在もブラジルのカトリック教会で同様に見做す傾向があることについては前号で紹介したとおりである。彼らが唱える輪廻転生に基づいた世界観と救済観がカトリシズムに根差した民衆の宗教性の変革を促すのである。